

第 24 回札幌市感染症対策本部会議 会議録

日 時：令和 3 年 4 月 1 日（木）16 時 00 分～16 時 30 分

場 所：本庁 12 階 1～3 号会議室

出席者：別紙座席表のとおり

【保健福祉局長】

ただいまから、第 24 回札幌市感染症対策本部会議を開催いたします。

保健福祉局の佐々木です。

本日（4 月 1 日）から新たな年度を迎え、新体制に変わったことを踏まえ、今後の対応等について、あらためて本部長であります秋元市長からご指示をいただくため、本日の会議を開催いたします。

はじめに、会議次第の(1)です。保健福祉局栗崎局長、説明をお願いいたします。

【各本部員（各局局長職）】

（保健福祉局 資料あり）

健康安全担当局長の栗崎です。

札幌市内の感染状況についてご説明をさせていただきます。

資料 1 ページ目をご覧ください。札幌市内の新規の感染者数は、3 月の初旬、3 月 3 日が（直近 1 週間の合計）103 人で最小値でございましたが、そこから再び、増加傾向に転じているところです。3 月 24 日には、北海道の警戒ステージ 4、ラインが二つ引いてありますけれども、下の方のラインが警戒ステージ 4 を超えるラインですが、これを超えるステージ 4 相当となりました。人口 10 万人当たり 15 人を超えておりまして、この日の札幌市内の新規感染者数は 54 人ということで、3 月 31 日現在では 10 万人当たり 15.8 人ということになっています。感染者数の増加は、10 月下旬の方にも黄色い矢印を入れてますけれども、同じような状況が見られており、11 月初旬、かなり新規感染者数が爆発的に増えております。このような感染者数が急増するような事態は、ここで何とか避けなければならない状況でございます。感染経路が追えない方の割合、

いわゆるリンクなしの割合が30%と一定数発生している状況でもございます。

次に2ページをご覧ください。新規感染者数は青い棒グラフでございます。黄色の棒グラフが入院患者数でございます。赤の折れ線グラフが重症患者数の推移でございます。3月に入りまして、新規感染者、中でも変異株の感染者の増加に伴って、入院患者が増加しております。

3月31日現在の入院者数、黄色の線ですけれども、230人というふうになっております。このうち、グラフには書いておりませんが、重症者が16人となっております。

これまでのピークで申し上げますと、入院患者数、黄色のピークは12月7日の302人であります。ただ、重症患者数は、これまでのピークは12月16日が19人ということで、重症患者数の数でいきますと、かなり増えてきている状況でございます。

次に3ページをご覧ください。検査数の推移ですけれども、直近1週間の検査数は9,052件で、1日平均で1,300件程度で実施している状況でございます。また、直近の陽性率は3.4%ということで、横ばいの状況が続いています。

次に4ページをご覧ください。年齢別の割合ですけれども、直近の週では60歳代以上の割合が39%ということで、高齢者の感染者が増加している状況であります。10月とは異なりまして、この中には変異株も発生をしております。変異株は感染力が強いと言われております。また、高齢者の方が感染すると重症化しやすいということから、これまで以上に注意が必要な状況であります。

次に5ページをご覧ください。市内の新規感染者の感染経路ですけれども、リンクありの新規感染者につきましては、直近では個人活動や家庭内を感染経路とする件数が増えてきております。右側のグラフの右2本がそのような形となっておりますが、市中に感染が広がる形で、病院や福祉施設内での感染クラスターが広がらないように注意をしていく必要があると思われれます。

次に6ページでございます。集団感染事例についてであります。3月に入りまして、高齢者が多く参加する集会での集団感染事例が発生しております。例としては、食品関連会社が主催をする集会、または地域の高齢者による飲食を伴う集会、そういったもので集団感染事例が発生をしております。左側の割

合の棒グラフで行きますと、3月4日から3月17日、グレーの「その他」というところに、その件数が入っております。こういったものが発生をする中で、その後、家庭やそれ以外の個人活動を通じまして、他の分野、福祉施設や病院、会社などに広がりを見せていく可能性があるということで注意が必要です。

次に7ページをご覧ください。変異株の検査状況についてご報告申し上げます。下の表の下の行ですけれども、3月23日から3月29日までの1週間では新規陽性検体数315のうち約7割の235検体について変異株のPCR検査を実施いたしました。これは、検体が確保できるものについてほぼ全て実施をしているという状況でございます。その結果、139件が変異株疑いという形になっておりまして、変異株検査の陽性率は59.1%ということで、50%を超え、前の週と比べますと、大きく増加をしている状況でございます。また、この139件の変異株確認数のうち8人につきましては、感染経路が不明ということでありますので、なかなかリンクが追えない中での変異株というのも確認され始めているということで、暮らしの中での市中感染の広がりへの懸念もあるということでございます。

次に8ページをご覧ください。区ごとの発生状況でございます。感染された方々のお住まいの区ごとに感染者数等を集計したものでございます。区によって発生状況が異なっておりますけれども、特に南区では新規感染者数の発生が100人ということで、多い状況になっております。また、下の行が変異株の数でございますけれども、変異株が南区は76ということで、いずれも他の区よりも多くなっている状況であります。北区ですとか東区に1～5というふうに書いてありますが、これは3月24日から3月30日の1週間分の合計ということでありますが、発生数が少ない場合にはですね、区が何件ということを示すと個人等が特定される可能性があるということで、少し幅を持った形で表記をさせていただいておりますので、この点についてはご理解いただきたいと思っております。また、厚別区のように発生がない場合については、0ということで表記をさせていただいております。

次に9ページをご覧ください。新規感染者のうち、変異株の関係の感染経路についての分析です。これまでに変異株と確認された方々の感染経路につきまして調査をいたしましたところ、個人活動に伴うものというのが約半数を占め

ております。

その他、家庭内での感染が疑われる事例が約3割ということで大変多くなっているということでもあります。また、この個人活動というのは具体的にはどうということなのかということでもあります。右の2つ目の黒丸であります。知人との交流、または対話、こういったものが感染経路と疑われる事例が約45%であります。また、飲食店での会話というのが約3割を占めておりまして、いずれも飛沫を飛ばす恐れのある行動が多く見られているという状況でございます。

私の方からは以上でございます。

【保健福祉局長】

続きまして、保健福祉局館石医務監お願いいたします。

【各本部員（各局局長職）】

（保健福祉局 資料なし）

保健福祉局医務監の館石でございます。

資料はございませんが、私からは、入院受入業者の現況についてご報告します。

まず、市内の新規感染者は引き続き増加傾向にありまして、先ほどの説明にもありましたように、3月31日現在、市民の入院患者数は230名となっていてところでございます。依然として、変異株の影響により入院が必要な陽性患者が増加をし、かつ、退院までの期間が長期化していることから、病床の使用数が増加している状況でございます。

こうした状況については北海道とも協議をし、入院受入体制を第3波のピーク時と同等まで拡大し、入院受入を最大限の体制で行えるよう、各医療機関に速やかな準備を要請しているところであります。また、変異株陽性患者につきましては、無症状や軽症の方の宿泊療養施設での受け入れを開始するとともに、回復期に入り、病状が安定した患者の転院を進めるための準備も行っているところです。さらに、院内感染防止の徹底のため、医療従事者で一層の注意を呼びかける文書とともに、医療機関の病棟職員向けの対策ハンドブックを市内の

病院等に送付したところでございます。今後も市民の皆さまが適切な医療を受けられるように、最大限の努力を続けてまいります。

私からは以上です。

【保健福祉局長】

次に、会議次第の(2)札幌市における取組についてでございます。

子ども未来局山根局長、お願いいたします。

【各本部員（各局局長職）】

(子ども未来局 資料あり)

子ども未来局でございます。

資料「子育て世帯生活支援特別給付金について」をご覧ください。

新型コロナウイルス感染症による影響が長期化する中で、低所得の子育て世帯の生活の支援に係る緊急支援策が先だって国において決定されたところがあります。

札幌市におきましても当該支援策を活用し、児童1人当たり一律5万円を支給する、子育て世帯生活支援特別給付金の実施に向けて準備を進めているところでございます。

対象世帯はお手元の資料のとおりでございますが、児童扶養手当を受給できる所得水準にある1人親世帯、および住民税非課税の2人親世帯となっております。

なるべく早期に支給することができるよう、実施に向けた準備を進めてまいります。

以上でございます。

【保健福祉局長】

その他ご説明などがあればご発言をいただきたいと思います。いかがでしょうか。

それでは本部長であります、秋元市長からご指示をいただきます。

【本部長（秋元市長）】

市民、そして事業者の皆さまには、感染対策にご理解・ご協力いただいておりますこと、そして、医療従事者の皆さまには、長期にわたりご尽力いただいておりますこと、心より感謝申し上げます。

現下の感染状況は、全国的に拡大傾向という状況にあります。札幌市においても感染者数、入院者数が増加をして、予断を許さない状況が続いているところであります。

特に変異株による感染というのが増えておりまして、特に注意が必要な状況となっております。変異株は、「感染しやすい」「重症化しやすい」「療養期間が長い」という特性があると言われており、今後の感染拡大や病床の逼迫を防ぐため、市では変異株対応や医療提供体制の強化を進めているところであります。

市民の皆さまには、先週の土曜日（3月27日）から、感染リスクを回避できない場合の外出自粛や市外との往来自粛の協力をお願いしているところですが、ここで何とか感染拡大を抑え込んでいく、そういう状況がもしできなければ、より強い措置の検討を北海道に要請しなければならない。そういう瀬戸際の状況にあることをご理解いただきたいと思います。

引き続き、皆さまには、ご負担をお掛けいたしますが、日常生活のあらゆる場面において、これまで以上に警戒心を高め、感染対策を徹底するということを強くお願いいたします。

それでは、本部員に対して4点指示します。

① 新体制における新型コロナウイルス感染症対応について

昨年から続く新型コロナウイルス感染症との戦いは、いまだ収束の目途が立たない状況にあることから、今年度においても感染症対策を、市政の最優先事項として、継続的かつ強力で推し進めること。また、感染状況に応じて、速やかに、保健所への必要な職員応援体制が構築できるよう万全の準備を整えておくこと。

② 発生状況に応じた注意喚起の徹底について

報告があったとおり、変異株の影響もあり、市内の感染状況は、区によ

って状況が異なることから、各局区においては、今後も区単位の感染状況に応じて、身近なところで感染が発生していることや感染対策の徹底について、様々な場面や媒体を活用し、注意喚起を行うこと。

③ 感染防止対策の徹底について

変異株の感染力の強さや感染拡大の速さは、これまで以上に警戒が必要であることを踏まえ、市有施設において、手指消毒がより一層徹底されるよう、取り組むこと。

④ 子育て世帯への特別給付金について

長期化する感染症の影響を鑑み、低所得の子育て世帯への特別給付金について、迅速に実施できるよう、スピード感を持って進めること。

私からは以上です。

【保健福祉局長】

各局におきましては、ただいまの本部長指示を踏まえ、今後の対応をよろしくお願いいたします。

それでは、以上をもちまして、本日の会議を終了いたします。